

〔挿絵〕補遺 ・ 邦枝完二作・木村莊八画

「媚薬」 『東京日日新聞』 昭和二十七年三月一日 (第一回)

(木村莊八記)

昭和二十七年三月一日 夜

スクラップしながら感じたのだが、つい一月前に、日本経済新聞の大佛次郎作「激流」を貼布し終ってすぐあとで、又これをスクラップしやうとは思はなかつた。

先年秋からこの新聞貼込のつづきをしながら思ふのである。

二月一日、この日、久米正雄の訃を聞く。少し前に、東日紙に書いてゐた。

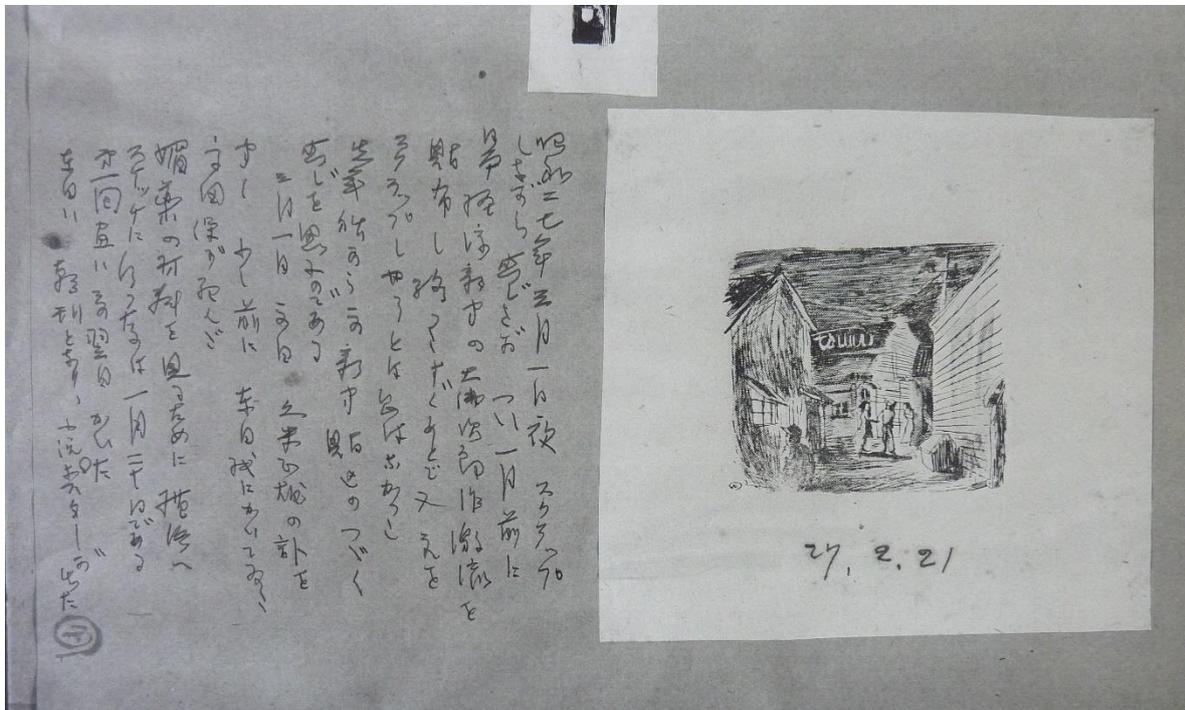
高田保が記した。

「媚薬」の材料を見るために横浜へ、スケッチに行ったのは一月二十日である。

第一回画は、その翌日に描いた。

東日は画朝刊となり、小説ポスターが出た。

(木村) 花押



東京日日新聞 THE TOKYO-NICHI-NICHI (日刊) 昭和27年(1952年)3月1日 (土曜日)

**媚薬 (1)**  
邦枝完二作  
木村莊八画



「媚薬」は、邦枝完二作の「媚薬」の第一回である。この物語は、戦後の東京を舞台にした、人間の欲望と倫理の衝突を描いた傑作である。主人公の運命が、この街の闇に引き込まれていく様子が、読者の心を捉える。木村莊八の挿絵は、その情景を鮮やかに表現し、物語の雰囲気を高めることに大きく貢献している。

---

**媚薬 (2)**  
邦枝完二作  
木村莊八画



「媚薬」の第二回は、主人公の運命がさらに複雑になっていく。この回では、主人公の過去の秘密が明らかになり、その秘密が現在の状況にどのような影響を及ぼしているかが描かれる。邦枝完二の巧い筆遣いと木村莊八の繊細な挿絵が、この物語の深みを際立たせている。

連載小説「媚薬」 広告ポスター

# 媚薬

作 邦枝完二  
絵 木村莊八



娘は父は流しの新内語り、  
橋お傳の背中に祖母は高  
横沢の刺青師、槽の次郎に  
牡丹の園を彫つてもらつた  
明治時代の洋妾を云ふ。  
作者得意の獨壇を云ふ。  
情痴の世界がどう発展して行

△時代小説  
八幡船  
山岡莊八

△日ソ外交秘録  
小畑武三

## 東京日日新聞